

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 公民 科目 政治・経済（自由選択）

教科： 公民 科目： 政治・経済（自由選択） 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 3 組～ 4 組

教科担当者： 古橋 健

使用教科書： 高等学校 政治・経済（第一学習社）

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 国家及び社会の形成者として必要な概念や理論などを活用して、現実社会における複雑な課題を把握し、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、その妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 政治・経済（自由選択） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	国家及び社会の形成者として必要な概念や理論などを活用して、現実社会における複雑な課題を把握し、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、その妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治は住民自治と団体自治の下で行われ、民主政治の基盤をなすものであることを理解する。 地方自治の政治制度の特徴は二元性と直接民主制の考え方が国政よりも多く取り入れられていることを理解する。 	第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 ①地方自治制度と住民の権利 ②政党政治と選挙 第3節 市場経済の機能と限界 ①経済活動と市場 ②経済主体と経済循環	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地方自治制度、政党の役割、市場経済、株式会社のしくみについて理解している。 地方自治、政党政治や選挙、主権者としての政治参加、価格の決定について多面的・多角的に考察し、表現している。 よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○		4
	<ul style="list-style-type: none"> 市場の競争性が維持されている場合でも公共財の提供がされにくいことなど、市場の失敗があることを理解する。 インフレ、デフレが国民生活に影響を与えることを理解する。 経済成長と景気変動を図る様々な指標の特色を理解する。 	③国民経済の大きさと経済成長 ④物価と景気変動 ⑤市場の失敗と公害・消費者問題	<ul style="list-style-type: none"> ストックとフロー、GDPや経済成長率における名目と実質の違いや、経済成長の要因、インフレとデフレの原因と影響、景気変動、物価や景気の変動について、理解している。 市場の機能と限界や解決のあり方について、考察し、またよりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	5
	<ul style="list-style-type: none"> 経済に関する問題について理解する。 	①演習問題	<ul style="list-style-type: none"> 実践課題への取り組み 	○	○	○	6
	<ul style="list-style-type: none"> 財政を国家財政と地方財政の双方について、両者の分担や連携について考える。 金融とは経済主体間の資金の融通であることと理解する。 金融市場における金利の動向が消費や貯蓄、投資行動に影響したり物価や株価、景気の変動に大きな役割を担っていることを理解する。 	第4節 持続可能な財政および租税のあり方 ①財政のしくみと租税の意義 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 ①金融のしくみとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 財政や租税の種類や特徴、金融と日本銀行の政策についての役割について、理解している。 財政の課題や現在の金融をめぐる動向とその課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 「持続可能な財政および租税のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	6
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 国際法のしくみについて理解する。 国際連合をはじめとした国際機構の意義や役割を理解する。あわせて、NGOや多国籍企業が国際政治に影響を与えていることも理解する。 国家間の対立を解消するためには調整し協調することが必要であることを理解する。 	第1節 国際法の果たす役割 ①国際社会の変遷 ②国際法の意義 ③国際機構の役割 ④国際紛争と軍縮への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 国際法と国内法の違いや、国際裁判とそのしくみ、勢力均衡と集団安全保障、国際連合の機能と平和的解決のための取り組みについて、理解している。 領土問題などの国際紛争の解決のあり方や、国際連合の役割強化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○	7
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の安全保障と防衛について理解を深める。 国家間の対立を解消するためには調整し協調することが必要であることを理解する。 	第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 ①日本の安全保障と国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> 平和主義の理念と日本の防衛政策の関連について、自衛隊の海外派遣について理解している。 国際社会において日本がこれから果たすべき役割について、多面的・多角的に考察し、構想し、表現している。 	○	○	○	7
	<ul style="list-style-type: none"> 国際法、安全保障に関する問題について理解する。 	①演習問題	<ul style="list-style-type: none"> 実践課題への取り組み 	○	○		7

3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・比較優位の考え方について理解させ、自由貿易論と保護貿易論とを対比させながら、現代の貿易問題と関連させて理解する。 ・世界貿易機関や国際通貨基金などの国際経済機関が果たす役割や課題について理解する。 	<p>第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質</p> <p>①貿易の現状と意義 ②国民経済と国際収支 ③為替相場の変動 ④国際協調と国際経済機関の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比較優位や国際分業の利点、国際収支、為替相場のしくみについて決定のしくみについて、理解して ・貿易の現状と国際収支の動向、地域的経済統合やF T A ・ E P Aの意義と課題について、考察し、表現している。 ・「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○		6
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済の安定のために日本が果たすべき役割にはどのようなものがあるのかを考察する。 	<p>第4節 国際経済において求められる日本の役割</p> <p>①国際経済における日本の地位と国際協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済における日本の地位について、理解している。 ・国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について、考察、構想し、表現している。 ・「国際経済において求められる日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	7
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済に関する問題について理解する。 	①演習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・実践課題への取り組み 	○	○	○	6
							合計